



2025年 令和7年 4月 1日 第29号  
障害者の社会参加、自立・就労支援



〒302-0022 取手市本郷5-4-21  
TEL/FAX 0297-73-8361  
(平日 10:00~15:00)  
ikiru7228@gmail.com  
http://npoikiru.stars.ne.jp/

## ごあいさつ

理事長 染野 和成



新年度に当たり、この1年間の活動内容をお知らせする会報をお届けするにあたり、当法人よりひと言ご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては日頃より当法人の活動につきましてご協力ご尽力をいただき、誠にありがとうございます。

この1年間のそれぞれ活動内容はこの会報に記しておりますので、御覧頂きたいと思いますが、今年は阪神淡路大震災から30年、東日本大震災から14年が経ちました。この震災によってたくさんの方が命を落とされたことはだれもが知るところです。身体に障害を持つ仲間たちも目の前に迫りくる恐怖におのきながら、たくさん亡くなられたことでしょう。胸が痛み

ます。当法人も私を含めて大災害が起きた場合、一人では逃げ出すことも不可能な方がたくさんおります。当法人も加盟している「とりで障害者共働支援ネットワーク」と連携して年に一度、防災訓練を行っていますが、今年ももっとたくさんの方のご協力が必要でしょう。

また昨年この紙面にも記しましたが、当法人の活動の一環で市の関係機関や当法人の友好団体からの招聘で各種委員会に手分けして出席し意見を述べる場をいただき、相当数の会議に出席を重ねました。それだけ当法人が周りとの関係団体の連携が強化できたかなとも思っています。今年も頑張ります。もちろん、私たちの活動は会員の皆様方の力に支えられているからこそ活動が続けられたことも忘れることはできません。これからも重ねて引き続きご協力ご尽力をお願いして、簡単ながらごあいさつとさせていただきます。

末筆ながら皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

### ご存知ですか？

### 健康保険で在宅マッサージが受けられます！

お問い合わせ、ご相談などお気軽にご連絡ください。

## オリエンタル治療院

〒301-0041 茨城県龍ヶ崎市若柴町 2183-9 TEL 0297-65-0985 FAX 0297-65-3323

# あいサポート運動

## ステップアップ研修

令和6年8月25日

市があいサポート運動を始めて3年目になります。本日2回目のステップアップ研修を開催しました。ステップアップ研修とはサポーター研修を受講した人を対象として、より深く障害のことを知ってもらいサポーターとして障害者の困り事に気づいて、障害者が住みやすい環境を作ってもらうことを目的にした研修です。



まだ2回目ということで研修として確立されていません。今回はこのような研修を多くされている茨城県地方自治研究センター研究員の有賀絵理さんをお招きし、主催者としての勉強も兼ねて開催しました。

受講者は15人で満席になりました。冒頭より有賀さんの熱のこもった障害者の実態を多くの例を上げて話され、皆さんは熱心に耳を傾けていました。一言一言にうなづき、メモを取られる方が多くいました。受講者のみなさんはきっと多くのことを学ばれたと思います。これからサポーターとして取手の環境を変えていってもらえると思います。

## 民生委員講話

令和6年10月25日

今月は3件も民生委員の集まりにお呼ばれし、宮脇と妻の満理子が参加しました。中部は移送サービスと障害者との関わり方について。西部は障害者の防災について。今日は障害者の支援と介護技術についてお話をさせていただきました。

どれも、共通するのは障害者との関わり方に皆さん興味を持たれていることでした。

市で主催しているあいサポート運動の研修には取手市のすべての地域の民生委員が受講されました。それが要因なのか、もっと深く障害について知識を得たいと思われたかわかりませんが、今までにない状況に嬉しく思いました。

宮脇が長年の妻・満理子の在宅介護と活動の経験で得た、人としての障害者の本来の姿に導く支援を心がけてほしいことを訴えたつもりです。

重度心身障害者の妻を連れて行ったので、重度の肢体不自由と高次脳機能障害の彼女の自立とは何か、人間らしい人生を送るための期待とは何かを聞いてもらいました。

# 障害者のための防災訓練

令和6年9月7日

猛暑の中、取手市福祉交流センターで「障害者のための防災訓練」が開催されました。主催はとりで障害者協働支援ネットワーク（以下ネットワークという）で共催として取手市安心安全対策課、社会福祉課、障害福祉課、消防本部、社会福祉協議会のご協力をいただきました。

今回は例年とは違う準備や内容を試みました。取手市には防災士が71人（市が把握している人数）いらっしゃるようですが、防災士どうし



悪路での車椅子介助

の連携ができていないとの事で、この訓練をきっかけに交流が深まればと思い、安全安心対策課にお願いして、この訓練の案内を配布してもらいました。

当日の参加者は77名＋手話通訳2名＋J:COM2名総勢81名でほぼ満席になりました。社協事務局長より流れの説明があり、まずネットワークが発行した「障害者のための防災マニュアル」の主旨と各障害の救済方法を説明しました。

次に災害についての講話として、双葉の水害の実態を双葉地域交流センターつなぐの代表中尾正幸さんが壮絶な体験と災害時における地域のあり方などを話してくださいました。次に消防本部が双葉水害と能登の大地震の被災状況や救助隊の行動と災害への備えについて資料を基にわかりやすく説明してくれました。最後に総務部部長が自助の大切さを話していただいて第1部を終了しました。

第2部は屋外に出て不整地で車いす介助の方法を見てもらい、そのままみんなで正面駐車場まで移動しました。まず、心肺蘇生の方法を教えていただいてから、自然災害体験車の体験、はしご車の体験、救助工作車の見学、心肺蘇生の体験に分かれて訓練と見学をしました。

例年と違って講話が多かったのですが、皆さん真剣に耳を傾けていました。まず今回の企画は成功と言ってよいでしょう。訓練は年に一回なので、今後も継続して危機感を持って災害に備えてほしいと思いました。



救助工作車

# バスハイク

ザ・ヒロサワシティ



恒例のバスハイク（福祉車両で行く遠足）が11月10日（日）に開催されました。

行先は筑西市にあるザ・ヒロサワシティです。ここの遠足は3年前に計画したのですが工事中で延び延びになりやっと実現しました。

当日は天気予報では傘マークだったのですが、晴れ男、晴れ女のパワーで傘マークがなくなりました。

9時半に集合し、3台の福祉車両に分乗して出発。参加者は車椅子ユーザーが5名、家族、ボランティアが9名、総勢14名です。車の定員能力上、参加人数に限りがあるのでちょっと不公平感があるのが心苦しいところです。

現地には11時半ころに到着。広大な敷地にいろんな施設があるところで目的の場所がよくわからなかったのですが、何とか到着。日曜日なので混雑を予想していたのですが、何となく閑散としていて営業しているのか不安を感じたのです。

まずはパークゴルフ場のレストランに行き早速腹ごしらえをしました。その後、目的の「ユメノバ」の受付まで徒歩で移動。ちょっと距離がありました。（後で車をユメノバ駐車場に移動）



「ユメノバ」にはいろんな展示場があり、ブラブラとすべての施設の見学をしました。最初に寄ったのは一番の目的であるゼロ戦が展示されている科博廣澤航空博物館に行きました。ゼロ戦のほかにYS-11やヘリコプター、セスナ機、グライダーなど多くの航空機が展示されています。航空館をあとにして順次展示場を巡りました。電車の展示場では車いすの人は車内に入れなかったのが残念です。懐かしい寝台車もあったのですが。そして、消防車の展示場からクラシックバイク、クラシックカー、ミニカーの展示など、広い施設をのんびりと散策しました。万歩計のカウントは5000歩以上だったそうです。



午後3時ごろにお土産などを買って帰路に着きました。とてものんびりした時間を過ごせたとし、乗り物好きにはとても満足されたと思います。車椅子ユーザーが普段行けないところへみんなで行くというこのイベントはぜひ続けたいです、来年はどこへ行きましょうか？

# 感謝状贈呈式

令和7年11月21日

取手市では毎年移送サービス（福祉有償運送）に従事しているボランティアさんの中で特に貢献されていた方に対して感謝状を贈呈しています。その贈呈式が11月21日午後6時より福祉交流センターで実施されました

今年は社会福祉協議会から3名、NPO法人活きるからは前川さん軽部さんの2名、合計5人の方が選ばれました。

定時に取手市中村修市長が来られ式が始まりました。司会から贈呈式の主旨を伝え、対象者の名前が呼ばれました。呼ばれた方は壇上に上がり一人一人に市長から感謝状が読み上げられ手渡されました。全員に贈呈され厳かに式は終わりました。



その後、写真撮影会になり、市長を囲んで集合写真を撮り、次に全員が市長との2ショットを撮り全て終了しました。

NPO法人活きるはボランティアさんに社会貢献する場を提供しているだけで、ボランティアさんたちは自らの意思で積極的に取手市内の移動困難な高齢者や障害者が外出するお手伝いをしています。移送サービスを利用されている方たちに代わってボランティアさんにお礼を申し上げます。

## 移送サービス報告

対象月	実利用者数 (人)	実運転者数 (人)	延べ送迎回数 (回)	送迎料金(円)
令和6年1月	146	13	586	532,700
令和6年2月	147	12	541	549,400
令和6年3月	157	12	663	605,600
令和6年4月	157	13	660	623,600
令和6年5月	139	13	600	566,900
令和6年6月	151	13	618	605,600
令和6年7月	157	16	654	583,200
令和6年8月	129	16	530	488,100
令和6年9月	134	15	534	467,600
令和6年10月	137	17	670	602,100
令和6年11月	131	17	589	540,000
令和6年12月	141	17	561	515,800
合計			7,206	6,680,600

NPO法人活きるの移送サービスはなかなか提供環境が間に合わなくて利用者様にはご不便をかけています。実績表を見ていただくと以前と比べて利用件数が7割程度となっています。ご予約をいただいてもかなりの件数をお断りしている現状が変わりません。しかし、活動してくださっているボランティアさんたちはできる範囲で精一杯頑張ってくれています。

未だに新規登録を制限させていただいていますが、現況の改善に努めると同時に精一杯の提供に努めてまいります。

# 表彰授与

## ●自治厚労省

令和7年2月6日

NPO法人活きる副理事長宮脇貞夫が自治功労賞授与のために水戸の市町村会館に行ってきました。

自治功労賞とは茨城県市長会が主催し、年に1回実施するもので、多年にわたり公共の事業に貢献し、地方自治の振興発展に寄与した方たちに授与されます。

今まで活きるやネットワークを通じて障害者の社会参加や啓発活動、そして福祉計画や各種委員会に参加して福祉行政に関わった。また、障害者家庭の生活スタイルや介護技術の指導を通じて相談業務（市から委託）などを行っている。そして、令和4年度から市と協働で推進している「あいサポート運動」に積極的に取り組み障害者理解に貢献している。そんなことなどが評価されたみたいです。

活動なんて一人でできるわけではなく、活きるやネットワークの仲間がいてこそ評価されたと思っています、みんなでもらった賞状でした。



## ●茨城県社会福祉協議会会長賞

2月20日木曜日に勝山博行さんが運営するチャレンジの広場が水戸市のヒロサワシティー会館で福祉大会が開催され、取手市社会福祉協議会から茨城県社会福祉協議会会長賞の受賞式に参加しました。

「式典が始まり、各賞の代表者が書状を受け取っている様子を見ながら、僕が活きるに入ってから今までのことを思い出し、胸が熱くなりました。僕は今でも活きるに誘ってもらったことに感謝しています。おかげでたくさんのことを学ぶことができ、いろいろな人とつながっています。最初チャレンジ広場の前進のリハビリスポーツを任された時はスポーツが好きだという軽い気持ちと障害があっても地域のために役に立ちたいという気持ちから引き受けました。今では参加者、協力者を含め、平均30名の方に参加、協力をしてもらっています。本当に皆さんに感謝しております。ありがとうございます。」



今回の表彰は僕1人ではなくチャレンジ広場の関係者の皆さん、今まで僕を支えてくださった皆さんとともに受けた賞だと思います。今後もこの賞に満足せず、誰でも楽しめるイベントにしていけるよう、競技の工夫などに努めていきますので今後とも皆さんの参加、協力を宜しくお願い致します。」

# 新年会

令和7年 1月 5日

今年も新年会を開催できたことに感謝します。参加人数は25名。体調不良で来れなかった方もいます。



会場はいつもお世話になっている東口の伊太利庵ボートです。今回も貸し切りで利用させてもらいました。車椅子の方が大勢いても問題なく利用できます。

さて、定刻の12時に全員集合して、理事長の染野から新年のあいさつと乾杯の後、宴が始まりました。各テーブルでお互いの近況やエピソード、そして昨年新たに活動参加された4名（1名は発熱で不参加）の方たちは自己紹介を兼ねて話題を提供してくださいました。

アルコールも入って宴たけなわになったころ、活きるの新年会では初めてのアトラクションが始まりました（元々無芸のメンバーばかりで宴会は飲むだけだった）新たに移送ボランティアを担ってくれている市議の染谷さんがウクレレを持って来てくれたのです。歌詞カードも用意してくれました。まずは「上を向いて歩こう」で歌い初めです。そして、若い新ボランティアさんがめっちゃくちゃ場を盛り上げてくれました。今までにない活きるが生まれたようです。来年もこのような楽しい宴になることを期待して、そして今年の活動がより良いものなることを確信してお開きとなりました。



## 障害者(児)ボランティア講座

令和7年3月12日



社会福祉協議会主催の障害者（児）支援ボランティア講座の講師に宮脇が依頼され妻の満理子と参加しました。今回の受講者は7名でした。前半は宮脇がボランティア活動するきっかけからNPO法人を設立し本格的な活動を始めたことをまず聞いてもらいました。そして、身体障害者のボランティアをする際に大事なこと、気をつけることなどをお話し、そして障害者の支援で大切な自立に向けた支援の

方法を聞いてもらいました。

後半は身体障害者の支援に必要な技術的な部分の介護技術について動画を用いていくつかの方法を見てもらいました。動画だけではなかなかコツはわかりませんが、こんな楽な方法があるということはわかってもらえたと思います。実技を習得するにはNPO法人活きるが主催している介護技術勉強会に参加して、講師から正しい方法を習得してほしいとお願いしました。

# ～新たな移動手段を考える集い～

令和7年2月15日



全国的な高齢化に伴い移動困難者が増えていることは否めません。ここ取手も例外ではなく、公共交通機関の不便さもあり相乗的に移動環境が問題になっています。市内の移動サービス団体も飽和状態ですすでに登録されている会員さんの送迎もままらなくなっています。そんな、移動環境の改善を目的に令和6年7月に新移動手段検討

会を立ち上げ市内の有識者に集まってもらって意見を交わし続け、その結果をまとめて市に提言書を提出しました。その後、市の関係部署や関係者と議論を交わし、やっと全国移動ネットの伊藤みどりさんを招いて講演会を開くことになったのです。

講演会当日は全国的な寒気に包まれていたのに暖かく快晴の絶好な日和になりました。かなり偏った内容の講演会でどれくらい人が集まるか不安でしたが、なんと定員80人のところ92人も来場してくれました。資料が足りなくなり嬉しい悲鳴です。特に、ぜひ聞いていただきたい立場の方が多く来ていただいた事に感謝です。これには、市役所がPRに尽力してくださった成果です。

講演会の意義を話してくださいました。

まず、市の現状を知ってもらうために公共交通を司っている都市整備部から市内の交通事情を話してもらいました。そして福祉部からは高齢化による移動の不便さをデータを下で理解してもらいました。次に中央タウンで活躍されている上原さんが今計画している移動支援についてきっかけや思いを語っていただきました。

休憩を挟んで本日の趣旨である新たな移動手段について全国移動サービスネットワーク事務局長の伊藤みどりさんから非常に有意義な内容の講話をいただきました。移動支援の大事さ、移動手段のシステムのいろいろ、複雑な手続きは必要のないシステムの構築や全国の事例を交えて、とてもとても深くそしてわかりやすい語りで約1時間会場の皆さんの心に訴えられたと思います。今日の講演まで多くの方に関わっていただき、まずはスタート地点にたどり着けたことに感謝します。そして、取手市の移動環境が改善されるように官民一体となって話し合いを続けたいと思っています。

今回配布した資料はNPO法人活きるのサイトからダウンロードできますので、各地域で資料を参考にして話し合い、活動開始につなげていただきたいと思っています。

# 楽ちん介護

NPO法人活きるでは毎奇数月の第3日曜日に新取手の障害者福祉センターあけぼので介護技術の勉強会を開催しています。元々NPO法人活きるは肢体不自由者の団体で運動機能に問題のある方には技術的な支援が伴うことが多いので、腰に負担の少ない介護技術を覚えてもらい活動に役立たせてもらいたいと始めました。設立当時から開催してるので20年くらいになります。最近の参加者は在宅介護している方や仕事で身体介助をされているプロの方がほとんどです。主な指導技術は軽度の方の立ち上がり介助から重度の方の車椅子からベッドの移乗技術まで独特のコツを先生から学び介護の負担軽減のお役に立っています。開催にあたっては定期開催なので上記の日に直接会場に起こしてください。また、必ず取手市の広報に開催案内を掲載しています。

## ●福祉行政に参加●

※取手市：障害者福祉計画策定、自立支援協議会、あいサポート運動、移送サービス運営協議会、地域支え合い協議体、市公募補助金検討委員、福祉まつり実行委員会、身体障害者相談員

※社会福祉協議会：理事、社協強化計画策定委員、社協ボランティア運営協議会 赤い羽根配分委員、社協だより編集委員、各種講座講師派遣

※とりで障害者協働支援ネットワーク：代表、役員、広報、防災、就労、障害者週間、ボランティア講座

### 編集後記

編集担当 鈴木 澄利

「活きる」の活動が他の団体、関係部署との関わりが多くなり「活きる」の存在がより大きくなってきましたが、所属する人は高齢となりこの先どうなるか心配になる今日この頃です。私自身、体がだいぶ衰えて来ましたが与えられた編集作業については、「活きる」がハツラツとした活動を皆様方に読みやすく、解りやすいをモットーに作業を行ったと自負しております。後、今回この作業ができるか。

2025年 令和7年 4月 1日発行  
発行所 NPO法人 活きる  
発行者 染野 和成  
編集者 鈴木 澄利  
連絡 〒302-0022 取手市本郷5-4-21  
TEL/FAX 0297-73-8361  
ikiru7228@gmail.com  
<http://npoikiru.stars.ne.jp/>

### 活動会員・賛助会員を募集しています

一緒にNPO法人活きるの活動に参加してみませんか  
皆様のご参加をお待ちしています。

活動会員 個人・年会費 2,000円

団体・年会費 3,000円

賛助会員 個人・年会費 1口1,000円 1口以上

団体・年会費 1口2,000円 1口以上

(活動・賛助会員の総会議決権はありません)

振込先

・郵便振替 00190-7-778948

・口座名義 「特定非営利活動法人活きる」